

# 宮城県感染症発生動向調査情報(第14週)

宮城県【平成26年04月11日】発行  
宮城県保健環境センター  
TEL (022)257-7228

— 2014.3.31 ~ 4.6 ・ 第14週 —

上段は患者発生数、下段は定点当たり

疾病	保健所								仙台市				宮城県(含む仙台市)			
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	患者数	患者数	累計	第11週	第12週	第13週	第14週		
水痘	7 1.40	14 1.40	2 0.40	1 0.50	3 1.00	4 0.80		11 0.42	42 0.72	739	○→	レ→	○→	○		
流行性耳下腺炎	1 0.20	1 0.10					3 1.50	10 0.38	16 0.28	163	→	→	→			
百日咳											→	→	→			
感染性胃腸炎	72 14.40	29 2.90	14 2.80	14 7.00	14 4.67	9 1.80	8 4.00	119 4.58	279 4.81	7,199	◎→	◎→	◎→	◎		
手足口病								1 0.04	1 0.02	18	→	→	→			
伝染性紅斑	4 0.80	9 0.90	3 0.60		2 0.67			15 0.58	33 0.57	495	○→	○→	○→	○		
突発性発しん	5 1.00	5 0.50	2 0.40		2 0.67	4 0.80		20 0.77	38 0.66	427	○→	○→	○→	○		
ヘルパンギーナ											→	→	→			
インフルエンザ	81 10.13	102 6.80	86 10.75	33 11.00	55 11.00	122 15.25	22 5.50	287 6.83	788 8.47	26,279	◎→	◎→	◎→	◎		
咽頭結膜熱			1 0.20	1 0.50				5 0.19	7 0.12	109	→	→	→			
流行性角結膜炎		1 0.33						2 0.33	3 0.25	24	→	→	→			
急性出血性結膜炎											→	→	→			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16 3.20	8 0.80	6 1.20	7 3.50	6 2.00	9 1.80		40 1.54	92 1.59	1,987	◎→	◎→	◎→	◎		
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	1 1.00								1 0.08	5	→	→	→			
無菌性髄膜炎											→	→	→			
マイコプラズマ肺炎				1 1.00			4 4.00	1 0.20	6 0.50	114	→	→	→			
クラミジア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→			
RSウイルス感染症	2 0.40	1 0.10			1 0.33	1 0.20		5 0.19	10 0.17	229	→	→	→			
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)		1			1		3	◎：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○：発生または流行について、今後の情報に留意 レ：発生が少なくなっている傾向							
	川崎病							4	【週報の詳報】宮城県保健環境センターのホームページをご覧ください。 <a href="http://www.ihe.pref.miyagi.jp/~kansen-center/">http://www.ihe.pref.miyagi.jp/~kansen-center/</a>							
	不明発疹症							3								
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※							5		25						

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求めることになりました。

## インフルエンザ関連情報 (患者報告年齢別割合)

報告週	年齢群	0~4歳 (%)	5~9歳 (%)	10~14歳 (%)	15~19歳 (%)	20~29歳 (%)	30~39歳 (%)	40~49歳 (%)	50~59歳 (%)	60~69歳 (%)	70~79歳 (%)	80歳~ (%)	総数 (人)
2014年 第8週		18.2	39.2	22.3	2.5	2.5	6.3	4.4	1.9	1.7	0.5	0.4	2,554
第9週		19.8	38.7	22.4	2.0	2.5	5.1	3.3	3.1	1.8	0.8	0.4	3,271
第10週		18.3	40.8	21.7	1.9	2.8	5.7	3.9	2.6	1.3	0.5	0.5	3,626
第11週		18.4	43.4	20.1	2.5	2.0	4.2	4.0	2.2	2.1	0.7	0.4	3,704
第12週		21.6	42.0	19.4	1.9	1.8	4.4	3.7	2.7	0.9	0.7	0.8	2,736
第13週		21.5	36.0	17.1	2.5	2.6	7.9	5.3	2.8	2.3	1.0	0.9	1,734
第14週		26.1	32.5	9.4	3.4	2.8	8.9	4.9	4.2	5.5	1.1	1.1	788

インフルエンザ定点とは、小児科定点と内科定点を合わせたもので、県全体で93定点(県:51、仙台市:42)となっています。

## 定点把握の対象となる5類感染症(全国 第12週)

(国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は3週連続で減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い、都道府県別の上位3位は福井県(39.97)、岩手県(33.72)、宮城県(29.42)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は502例と前週と比較して減少した。年齢別では0歳(26例)、1~9歳(200例)、10代(43例)、30代(13例)、40代(11例)、50代(13例)、60代(48例)、70代(59例)、80歳以上(89例)であった。RSウイルス感染症: 報告数は612例と第5週以降減少が続いている。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約80%を占めている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位3位は山形県(5.30)、新潟県(4.31)、富山県(3.41)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は大分県(16.00)、熊本県(14.16)、宮城県(13.64)である。水痘: 定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は石川県(3.72)、沖縄県(3.41)、福井県(2.68)である。手足口病: 定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は宮城県(1.19)、熊本県(1.06)、大分県(0.42)である。マイコプラズマ肺炎: 定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は青森県(1.50)、富山県(1.00)、宮城県(0.58)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る): 定点当たり報告数は2週連続で増加した。36都道府県から133例報告があり、年齢別では0歳(19例)、1~4歳(96例)、5~9歳(14例)、20代(2

\* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。  
( )内の数字は定点当たり報告数となります。

## 今週の全数報告疾病

- 1類感染症: 報告なし ※男児、女児は6歳未満
- 2類感染症: 結核
  - 石巻管内 男性1名(第13週)、男性1名
  - 女性1名(第13週)、女性1名、\*女児1名
  - 仙台管内 女性1名
- 3類感染症: 報告なし
- 4類感染症: 報告なし
- 5類感染症: アメーバ赤痢
  - 塩釜管内 男性1名
  - 後天性免疫不全症候群
  - 石巻管内 男性1名
  - 仙台管内 女性1名
  - 梅毒
  - 塩釜管内 女性1名(第13週)
  - 破傷風
  - 仙南管内 女性1名

## 今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 6例

### 今週の感染症のコメント

— 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 —

#### [インフルエンザ]

仙南、大崎、登米、石巻で警報継続中。  
栗原管内で注意警報継続中。

#### [病原体検出情報]

##### ~宮城県保健環境センター~

感染性胃腸炎患者より  
塩釜管内 第11週採取分 ノロウイルスGⅡ 2件  
第12週採取分 ノロウイルスGⅡ 1件  
第12週採取分 アデノウイルス 1件

##### ~仙台医療センターウイルスセンター~

	第12週採取分 (3.17~3.23)	第13週採取分 (3.24~3.30)	第14週採取分 (3.31~4.6)
インフルエンザウイルスAH1pdm	1件	1件	0件
インフルエンザウイルスAH3	1件	0件	0件
インフルエンザウイルスB	1件	2件	0件
インフルエンザウイルス(解析中)	0件	1件	2件
RSウイルス	0件	0件	2件
アデノウイルス	0件	1件	0件

#### [インフルエンザ]

県内の患者数は、第11週をピークとして3週連続で減少し、今週は、塩釜、気仙沼、仙台管内で警報継続基準値10を下回りました。この時期としてもまだ流行が継続していますので、今後も日常的な予防を心がけてください。

#### [感染性胃腸炎]

県内の患者数は減少傾向にありますが、まだ減少の見られない管内がありますので引き続き注意が必要です。